

美学 264

バウムガルテンの感性的判断 (iudicium sensitivum) とその歴史的系譜 —論理学・心理学・詩論・趣味論の系譜に即して—	桑原 俊介 1
生活のリズム—現代の日常美学とジョン・デューイ—	青田 麻未 13
初期グリーンバーグにおける社会批判としてのアヴァンギャルド —『パーティザン・レビュー』誌上の議論を手がかりに—	坂井 剛史 25
いけばなにおける切り花の死—いけ手がさわりながら花器から抜く—	柳川 太希 37
悲劇を観てなぜ悲しむべきなのか —フィクション鑑賞における適切な情動的反応について—	岡田進之介 49
ニコラ・プッサン作《ニュサのニンフに預けられる幼いパッコス、 ナルキッソスとエコーの死 (パッコスの誕生)》—物語の場と叙述の伝統、寓意—	福田 恭子 61
—七世紀フランス宗教画と <i>grâce</i> の概念 —アンドレ・フェリピアン美術批評をめぐって—	望月 典子 73
J・W・ウォーターハウス《マリムネ》における白の象徴性	本美里紗子 85
須田国太郎の絵画技術について	小林 俊介 97
参加型作品における経験共有の可能性 —リジア・クラーク没後の展覧会を中心に—	飯沼 洋子 109
労働のリズムと散漫な聴取 —十八世紀末から十九世紀初頭ドイツのリズム論を中心に—	岡野 宏 121
ハインリヒ・ツィレのように撮る—ツィレ映画『クラウゼ母さんの 幸福への旅』(一九二九)における現実表象の探求—	池田真実子 133
書評	
樋笠勝士 編『フィクションの哲学—詩学的虚構論と複数世界論とのキアスム』 月曜社、2022年	吉岡 洋 145
尽きない泉—田辺 清 著 『レオナルド・ダ・ヴィンチの源泉—様式・文学・人物表現』 春風社、2023年	池上 英洋 149
上山典子 著『「新ドイツ派」の成立—リストと彼の仲間たちによる進歩的音楽集団』 春風社、2022年	長野 順子 154
例会・研究発表会発表要旨	163
学会消息・編集後記	173
欧文要旨	182